



出雲の大型古墳
国の史跡指定
100年



出雲の大型古墳
国の史跡指定

100年

国の史跡指定100年
記念企画

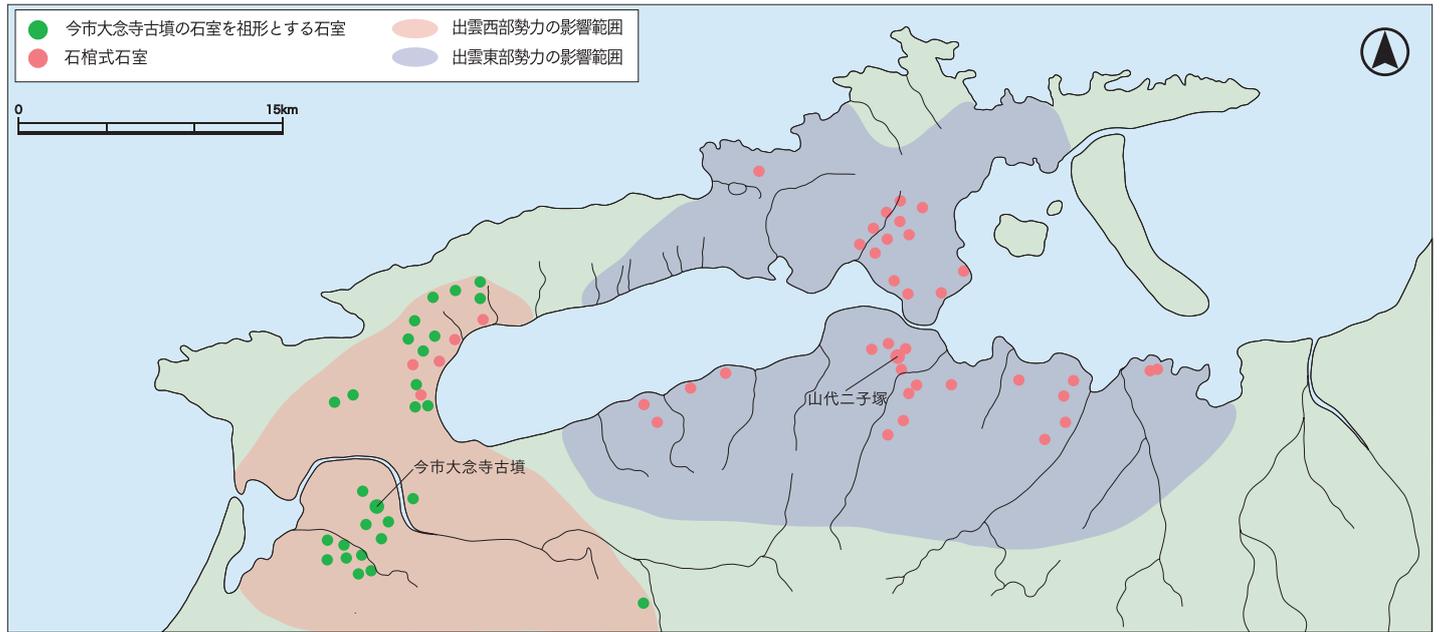
東西出雲の王

東西出雲の王

古墳時代後期(6世紀)の出雲地方は、^{おう}意宇郡を中枢とした出雲東部の豪族と^{かんど}神門郡を中枢とした出雲西部の豪族の2大勢力が存在していました。出雲東部の勢力が前方後方墳や方墳をつくったのに対し、出雲西部の勢力は前方後円墳や円墳をつくるなど、両者で古墳の形が明確に異なります。また、石室の構造や古墳で執り行われた儀礼なども異なり、それぞれ独自の古墳文化が發展します。

両者はともにヤマト王権との関係のもとに政治的な権力基盤を築き上げましたが、出雲東部は古墳時代中期から王権との直接的な関係から支配領域を形成したのに対し、出雲西部は古墳時代後期に新たにヤマト王権と関係を結んだ可能性が考えられます。

出雲地方を代表する古墳として、出雲東部の^{おおばにわとりづか}大庭鶏塚、山代二子塚、出雲西部の^{かみえん やつきやま}今市大念寺古墳、^{かみえん や し ぞうやま}上塩冶築山古墳、上塩冶地蔵山古墳があります。これらの大型古墳は大正13(1924)年に国の史跡として指定されました。令和6(2024)年12月9日に国指定100年となることを記念し、改めて東西出雲の2大勢力に焦点を当てます。



東西出雲の勢力図

※水域は当時の推定

—古墳マップ—

出雲西部地区



出雲東部地区



※墳形が不明なもの●とした

出雲地域主要古墳編年表

時期	出雲西部	出雲東部
中期 (五世紀)	神庭岩船	古曾志大谷1号 金崎1号 竹矢岩舟 観音山2号 宮山1号 宮山3号
後期 (六世紀)	半分 上島	林43号 椎山 薄井原 大庭鶏塚 大草岩船 造山2号 仏山
	妙蓮寺山 今市大念寺	魚見塚 手間 東淵寺 山代二子塚 岡田山
終末期 (七世紀)	放レ山 宝塚 上塩冶築山 国富中村 上塩冶地藏山	林8号 朝酌岩屋 岩屋後 古天神 御崎山 向山1号 山代方墳 山代原 廻原1号 塩津神社 飯梨岩舟 若塚

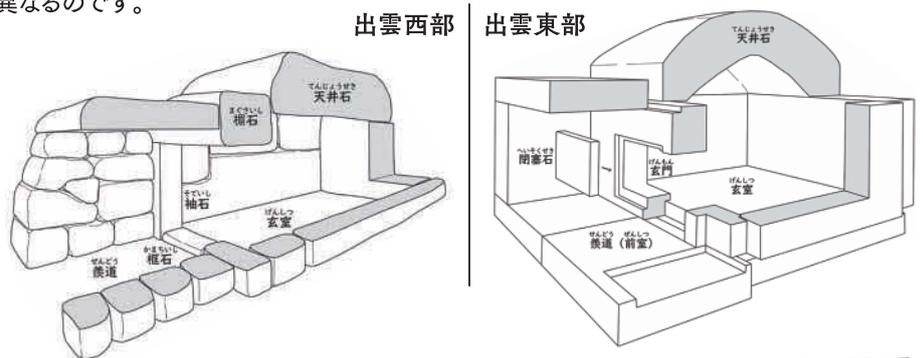
東西石室構造の比較

6世紀後半以降の出雲では、横穴式石室が大型化し、切石(加工して整えた石材)が導入されるという共通の流れをたどります。一方で、石室構造は東部と西部では大きく異なります。

出雲西部では壁が複数の石からなる通有の横穴式石室が造られますが、東部では各壁に大きな一枚石を用いる石棺式石室が主流となります。前者は石材を「積み上げる」技術なのに対し、後者は「組み合わせる」技術といえ、見た目だけでなくベースとなる技術も異なるのです。

実は石室だけでなく、墳丘の形や、古墳で執り行われた儀礼も相違点として挙げられます。

こうした違いは、それぞれの地域を統括した大首長の影響範囲を示すものと考えられます。共通点・相違点を意識して東西の古墳を観察してみると、古代出雲の複雑な実態が見えてくるかもしれません。



上塩冶築山古墳の横穴式石室3Dモデル(出雲市提供)

出雲西部勢力

出雲市今市町から上塩冶町一帯の今市・塩冶古墳群や古志町一帯の古志古墳群では、6世紀後半に集中して大型の古墳が築かれています。

国史跡 いまいちだいねんじ 今市大念寺古墳

6世紀後半に築かれた、全長92mの出雲地方最大規模の前方後円墳です。墳丘や石室の構築には排水処理や雨水流入防止のために高度な土木技術が採用されていることがわかっています。

横穴式石室は、奥室、前室、羨道から構成される複室構造で県内最大のもので、奥室に置かれた石棺は全国最大級の家形石棺で、凝灰岩をくり抜いて造られています。

出雲東部の山代二子塚とともに県内最大級の古墳であり、出雲西部一帯を勢力範囲とした豪族の墓です。その権力は、上塩冶築山古墳、そして上塩冶地藏山古墳に埋葬された豪族へ受け継がれていったようです。



石室と家形石棺(出雲市提供)



詳しい説明は
こちら

県史跡 みょうれんじやま 妙蓮寺山古墳

6世紀後半に築かれた全長49mほどの前方後円墳です。横穴式石室は自然石と割石で構築されており、南西に開口しています。玄室と羨道を含めた長さは8m程で、境には柱状の石材がせり出す両袖形となっています。玄門は2枚の板石を観音開きになるよう据え、その手前に円柱状の石を置いて閉塞する珍しい構造になっています。玄室内には凝灰岩をくり抜いて造られた横口式の家形石棺が置かれています。

副葬品は大刀、馬具、鈴釧などが確認されています。



石室と家形石棺(出雲市提供)



詳しい説明は
こちら

国史跡 かみえんやつきやま 上塩冶築山古墳

6世紀後半から末頃に築かれた径46mの大型円墳です。墳丘の周辺からは円筒埴輪や子持壺が出土しています。横穴式石室は奥行き15m程で、山陰では最大の規模です。石室の各壁は切石からなる整美な造りで、玄室には大小2個のくり抜き式家形石棺が置かれています。

明治20(1887)年に石室が開口され、215点におよぶ副葬品が出土しています。副葬品は、玉類、金銅冠、金銀装円頭大刀、馬具、須恵器などであり、これらの多くが国の重要文化財に指定されています。

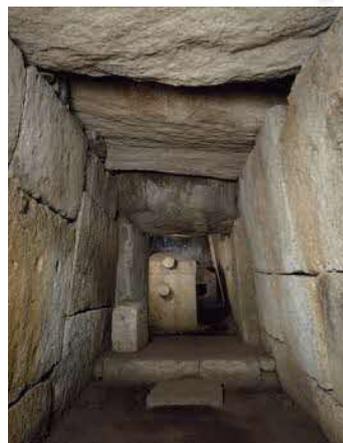
墳丘規模や石室構造、煌びやかな副葬品から、今市大念寺古墳の被葬者の後を継いで出雲西部を治めた豪族の墓と考えられます。



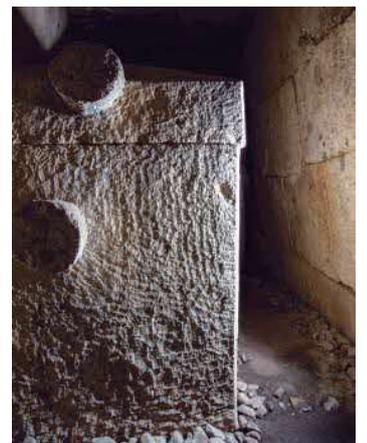
詳しい説明は
こちら



出土した煌びやかな副葬品
(出雲市提供)



石室内部(出雲市提供)



家形石棺(出雲市提供)

はな やま 県史跡 放レ山古墳

石室内には入れません

6世紀後半から末頃に築造された径13mの円墳です。石室は全長7m程度の両袖形横穴式石室で、凝灰岩の切石を持ち送りながら積み上げています。奥壁には大きな一枚の切石、側壁にはブロック状の小型切石を用いて構築されていますが、天井石は自然石です。玄室内には計3体分の有縁石床が残っています。

副葬品には、大刀や馬具等が確認されています。



詳しい説明は
こちら



横穴式石室(出雲市提供)



石室内部(出雲市提供)

たからづか 国史跡 宝塚古墳

現在は石室の天井石が露出しており、墳丘も削られていて墳形や規模は分かりません。

石室は凝灰岩の切石で構築された横穴式石室で、構造から6世紀末～7世紀初頭に築造されたと考えられます。上塩冶築山古墳や放レ山古墳よりも新しく、石材加工や積み方も洗練されています。

玄室の右側には凝灰岩の家形石棺が置かれており、蓋は1つの石をくり抜き、棺身は2つの石材を組み合わせています。

石室は古くから開口しており、副葬品は不明です。



詳しい説明は
こちら



宝塚古墳(出雲市提供)



石室と家形石棺(出雲市提供)

かみ えん や し ぞう やま 国史跡 上塩冶地藏山古墳

盛土の流出により長らく墳形は不明とされてきましたが、近年行われた発掘調査により、一辺25m程度の方墳である可能性が高まりました。横穴式石室は全長8m程の複室構造で、凝灰岩の切石で構築されています。最大の特徴は、すべて一枚の切石で組まれた奥室と、出雲東部の石棺式石室の影響と考えられる「くり抜き玄門」の存在です。

開口が古く副葬品は不明ですが、石室構造から7世紀前半と考えられます。



詳しい説明は
こちら



上塩冶地藏山古墳(出雲市提供)



石室内部(出雲市提供)

えん や 今市・塩冶古墳群～出雲西部勢力の大首長が眠る地～

今市町から上塩冶町の一帯は、6世紀から7世紀にかけて大型の古墳が相次いで築かれ、出雲西部地域を治めた大首長の墓が分布します。

半分古墳、今市大念寺古墳、上塩冶築山古墳、上塩冶地藏山古墳と続く歴代の最高首長墓のあり方は、ほぼ同時期の山代・大庭古墳群に現れる山代二子塚などと対比され、出雲東部地域に並び立つ勢力が存在したことを物語っています。



出雲西部地域の首長墳変遷図

出雲東部勢力

松江市の南郊、山代町・大庭町を中心とする一帯は、山陰でも有数の大型古墳密集地で6~7世紀に相次いで大型の古墳が築かれています。

国史跡 おおばにわとりづか 大庭鶏塚

6世紀前半に築かれた全長約45mの方墳です。菱形に近い形をしており、西側と南側に造出を設けています。二段築成で、各段には石垣状の葺石が築かれています。埋葬施設についてはわかりませんが、墳丘周囲の発掘調査では溝が検出されています。

大庭鶏塚の付近には、山代二子塚や山代方墳、山代原古墳がありますが、この山代・大庭古墳群の中でも最初に築かれたのが大庭鶏塚です。

出雲地域でも最大級の大型方墳であることから、当時の出雲東部勢力の王の墓と考えられます。



詳しい説明は
こちら



大庭鶏塚(松江市提供)

国史跡 やましるふたごづか 山代二子塚

6世紀中葉以降に築かれた前方後方墳で、全長約94m、周囲の溝まで含めると100mを超えます。6世紀の前方後方墳としては全国最大級の規模を誇る古墳であり、大庭鶏塚に続き、出雲地域東部を治めた王の墓であると考えられています。

山代二子塚からは埴輪や子持壺が出土しており、築造当時は墳丘を取り囲むように立て並べられていたことが想定されます。埴輪は円筒埴輪のほか、四つ足の動物の形象埴輪が出土しています。また、子持壺は出雲地域独自のものであり、儀式専用の祭器として用いられています。



詳しい説明は
こちら



子持壺



円筒埴輪



形象埴輪(馬?)

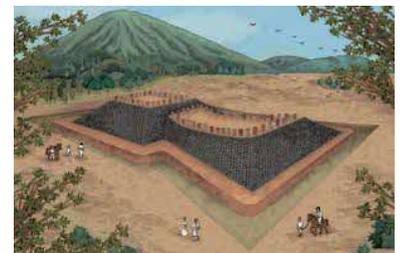
出土遺物



復元イメージ



山代二子塚



山代二子塚復元イラスト

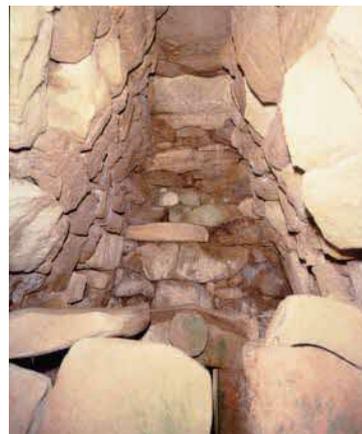
国史跡 おかだやま 岡田山古墳(岡田山1号墳)

6世紀後半に築かれた全長約24mの前方後方墳です。周囲には3基の古墳があり、2号墳は円墳です。1号墳は小規模な前方後方墳で、前方部の前面には基壇きだんを設けています。墳丘斜面には葺石が施され、その外側に円筒埴輪が並べられていました。後方部には自然石や割り石を積んだ横穴式石室が造られており、玄室中央には家形石棺が納められています。

優れた副葬品が多く出土しており、特に「額田部臣ぬかたべ」の銘文の円頭大刀は著名で、ヤマトの大豪族と深い関わりがあったことを示しています。



詳しい説明は
こちら



岡田山1号墳石室



銘文大刀
(重要文化財)

国史跡 ^{やましろ} 山代方墳

7世紀初頭に築かれた方墳で、墳丘の規模は南北約43m、東西約45m、高さ約6mとなります。周囲には溝や堤があり、これらを含めると一辺81~84mとなります。墳丘は2段築成であり、上段には現在でも石が散見され、葺石を伴っていたことがわかります。発掘調査により、溝や堤では埴輪や須恵器が出土しています。須恵器には儀式用の祭器である子持壺が多く含まれており、山代二子塚と同様に、埴輪とともに墳丘に立て並べていたことが想定されます。

出雲地域の古墳時代後期を代表する大型方墳です。



詳しい説明は
こちら



石棺式石室



出土遺物(子持壺)

やましろ はら ^{山代原古墳}

見学不可

7世紀前半に築かれた一辺約23mの方墳です。横穴式石室は出雲東部特有の形態である石棺式石室と呼ばれるもので、その中で最も整美かつ最大級のものです。床石や側壁の細部に至るまで丁寧な加工を施し、石材同士をびたりと組み合わせています。当時の技術力を結集した、まさに最高首長の名にふさわしい古墳といえます。



石棺式石室

いわやあと ^{岩屋後古墳}

県史跡

6世紀後半~7世紀初頭に築造された、20m規模の円墳あるいは方墳と考えられており、出雲最大級の石棺式石室です。現在は墳丘盛土の大部分が失われ、水田の中にぼつんと石室が露出しており、特徴的な石棺式石室の姿を観察できます。

出土品には、明治時代に発見された人物埴輪や、1977年の発掘調査で出土した馬形埴輪、円筒埴輪、須恵器の子持壺や皮袋形土器などがあります。



詳しい説明は
こちら

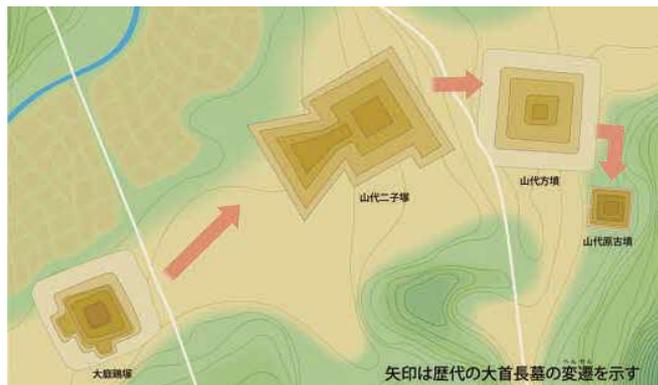


石棺式石室と人物埴輪(レプリカ)

やましろ おおば ^{山代・大庭古墳群~出雲版「王家の谷」~}

松江市の南郊、山代町、大庭町を中心とする一帯は、山陰でも有数の大型古墳密集地で6世紀前半から7世紀にかけて相次いで大型の古墳が築かれています。これらは山代・大庭古墳群と呼ばれ、特に山代二子塚と山代方墳は出雲地域で造られた同時期の古墳の中で最大となることから、出雲東部勢力の大首長が葬られた古墳群とされています。

出雲版「王家の谷」と呼ぶにふさわしい古墳群です。



出雲東部地域の首長変遷図

出土品を見にいこう

八雲立つ風土記の丘展示学習館

〒690-0033 鳥根県松江市大庭町456番地 TEL.0852-23-2485

ホームページは
こちら



八雲立つ風土記の丘展示学習館では、古代出雲の中心地「意宇(おう)」の歴史と文化について紹介しています。館内では、古墳時代と奈良時代を中心に、岡田山1号墳出土の「額田部臣」銘文入り大刀(重要文化財)や平所遺跡埴輪窯跡出土の「見返りの鹿」埴輪(重要文化財)などの出土品を展示しています。また、奈良時代の景観を復元した模型では当時の様子をわかりやすく紹介しています。

- ◆開館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日：毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始、企画展前後臨時休館
- ◆入館料：一般200円(300円)、大学生100円(200円)、高校生以下無料
※()は特別展料金



ガイドンス山代の郷

やましろ さと

〒690-0031 鳥根県松江市山代町470-1 TEL.0852-25-9490

ホームページは
こちら



山代二子塚の南隣りには、山代二子塚やその周辺の遺跡・古墳の見学拠点としてガイドンス山代の郷があります。館内では、山代二子塚を中心として、山代・大庭地域の史跡についての説明・遺物展示のほか、この地域の文化財を空からみた映像も見ることができます。また、山代二子塚の後方部に整備された土層見学施設では、全国で唯一古墳内部の土層の様子を見学することができます。

- ◆開館時間：9:00~16:30
- ◆休館日：毎週火曜日
(祝日の場合は翌日)、
年末年始
- ◆入館料：無料



全国唯一の土層見学施設

出雲弥生の森博物館

〒693-0011 鳥根県出雲市大津町2760番地 TEL.0853-25-1841

ホームページは
こちら



弥生時代後期に現れた巨大な王の墓「西谷墳墓群」。出雲弥生の森博物館は、その史跡公園に隣接する市立の歴史博物館です。「王墓」西谷3号墓の出土品と巨大ジオラマで「出雲王」の葬儀の様子を徹底解説。見る人を古代出雲の世界へ誘います。また、重要文化財上塩冶築山古墳の出土品を始め、出雲市内の主要な遺跡や最新の発掘調査も紹介。たいけんコーナーでは、勾玉・缶バッチなどのものづくり、発掘体験や古代衣装着付体験ができます。

- ◆開館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日：毎週火曜日
(祝日の場合は翌日)、
年末年始
- ◆入館料：無料

